

(様式2)

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590400089		
法人名	社会福祉法人 県央福祉会		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	新潟県三条市島潟221番1		
自己評価作成日	令和3年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為、バックアップ施設である特別養護老人ホームとの合同行事や、小規模多機能との合同行事も現在は見合わせている。この状況下でも、ご利用者の楽しみを少しでも多く持てるよう、ご利用者の自治会の中で、毎月会議を開き、ご希望やご意見を伺い、可能な範囲で実践している。畑作業・畑の管理、収穫、調理などご利用者が自発的に行えるよう配慮し、ご自分の知識や能力を発揮することで、意欲向上や認知症予防にもつながっている。職員のスキルアップの為に、外部研修参加の機会や、施設内研修開催など幅広い分野で学習する機会を設けている。面会は窓越し面会を随時行い、ご家族や友人との繋がりを継続できるよう配慮している。また、いつでも電話にて会話できるよう支援している。その日の天候で、ご利用者のご希望を伺いながら、行きたい所へ出かけられるよう、感染対応をしっかりと行いながら、ドライブや買い物の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は三条市下田地区にあり、田畑に囲まれ五十嵐川が流れるのどかな環境にある。四季折々に花が咲き、冬には白鳥が飛来するなど利用者と季節の移り変わりを楽しむことができる。事業所内には畑があり、利用者と何を植えるか話し合い、作物や花を育て収穫を楽しむにしている。利用者は地元の出身者が多く、慣れ親しんだ畑作業に生き生きと取り組んでいる。開設時から利用者による自治会「コスモスの会」を組織し、毎月会議を開き、「食べたい物」「出かけたところ」「畑で作りたい作物」などについて話し合い、その結果を受けて職員が可能な限り希望を叶えるよう支援している。コロナ禍でも、感染症対策を行いながら、利用者が希望する場所へ少人数で出かけ、リフレッシュできるように支援している。また、地域との関係作りに積極的に努めており、近くの小学校の行事に参加し交流している。密を避けながら、地域の公民館を借りて認知症カフェを毎月開催し、年間計画を作り地域住民に知らせ、参加を募り、利用者の送迎もしながら積極的に交流に努めている。コロナ禍で毎年多くの地域の住民が参加していた納涼祭は開催できなかったが、次年度には再開できるように検討している。また、家族との面会も、窓越しや面会コーナーを設けるなど配慮した。家族は受診の付き添い等を担ってくれており、来訪時には職員とも良く話をし利用者の状態を共有している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の会議で、理念の確認を行っている。又、食堂、休憩室、事務所に理念を掲示することで職員が常に目にして、意識しながら業務を遂行できるようにしている。毎年全職員で、理念を念頭に置いた個人目標を立て実践しスキルアップを図っている。理念にある地域交流に重点を置いた活動支援を行なっている。	開設時に作成した理念を食堂、休憩室、事務所に掲示し、常に意識し業務に当たるようにしている。職員は目標管理シートにて理念に基づく目標を立て、年2回上司と面接し、達成状況の振り返りと評価をしながら利用者への支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、年2回のお祭りに地域の方や児童を招くことはできなかった。地域の小学校行事である運動会、文化祭には出向き、児童や父兄と交流できた。毎月、地域や公民館、小学校に便りを配布している。地元スーパーからの食材発注や地域のお店へ買い物に出かけ、交流を図っている。	開設当初から地域との関係構築に努めている。事業所を知ってもらうために、自治会を通して広報紙を回覧・配布している。コロナ禍のため活動の制限もあるが、感染防止対策を講じながら近くの公民館を借りて毎月認知症カフェを開催し、地域住民に参加してもらっている。近くの小学校の運動会や文化祭にも出向いて交流ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している便りに、認知症カフェの案内を掲載し、認知症理解のためのミニ講座を行っている。又毎日、認知症に関する相談も受け付けている。コロナ禍で今年度は中止しているが、毎年小学校の文化祭に認知症カフェのコーナーを設けて子供達や地域の方々に、認知症の啓発活動を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは、ご利用者、ご家族、民生委員、自治会長、市社協職員、市職員、地域包括職員で構成されており、行事などの活動、研修や評価への取り組みを書面とプロジェクターで報告している。そこで地域行事の情報を聞き小学校文化祭や運動会に参加する事ができた。	会議は2ヶ月に1回、地域の公民館を借りて開催している。事業所の取組や利用者の様子をより理解してもらえよう、パソコンのプレゼンテーションソフトや映像を利用した説明もしている。会議ではメンバーからの質問も多く、地域活動に関する助言や情報提供も得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議内で、市職員に活動状況を報告し、意見を伺いコロナ禍での外出や認知症カフェの重要性についてアドバイスを頂いている。いつでも、電話やメールにて相談をしている。便りを下田サービスセンターに届け活動内容を報告している。	運営推進会議には市の担当者の参加も得ており、事業所の状況を把握してもらっている。認知症カフェについての相談や報告も行っている。また、下田庁舎には毎月広報紙も持参して顔の見える関係づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修に参加し、理解を深めている。日中玄関は、常時開放されている。月1回のグループホーム職員会議では、身体拘束についてグレーゾーンも含め、検討している。また、本体合同の身体的拘束等適正化検討委員会を3ヶ月に1回開催している。	母体の特別養護老人ホームと合同の「身体拘束等適正化検討委員会」が定期的に開催され、会議の結果については職員に周知している。マニュアルも整備し研修は定期的実施している。毎月のグループホーム会議でも、言葉遣い、利用者への態度などについて振り返り、身体拘束のないケアに取り組んでいる。「あれあれシート」と名付けたシートでは、職員同士、口では言いにくい気づいたことを記入し合い、検討している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で行われる虐待に関する研修に参加し、理解を深めている。また、月1回行っている会議内で身体、精神の両面で虐待に当てはまることは無いか検討し、適切な言葉遣いや対応方法を職員間で統一できるようにしている。	マニュアルを整備し研修を定期的実施している。毎月の会議でも、虐待の可能性について確認しており、その都度職員間で話し合いをしている。職員のストレスに軽減に向けて、いつでも話ができるよう管理者は体制を整えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回研修を行い、職員に理解してもらう機会を作っている。必要と思われるケースは、利用者、家族等に働きかけ、市役所と連携し活用に向けて取り組む。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書、利用料等十分な時間をかけて説明を行っている。その上でご利用者、ご家族からの不安、疑問点に関しても丁寧な説明を心がけている。改定時は、説明会を行ったり、文書による周知と直接会えない場合は電話連絡で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の自治会から出た希望は、定期会議内で検討し、実現できるよう支援している。又、生活の中でご利用者の言葉に耳を傾け希望を聞き取っている。ご家族には、受診時や面会、プラン説明時に意見を聞き、要望があった際は速やかに実践している。玄関ホールに意見箱を設置している。毎年アンケート調査を行っている。	利用者の自治会「コスモスの会」を毎月開催し、利用者から意見が出されるよう配慮し、出された希望にはできるだけ応じられるよう支援している。毎年2月に家族に対しアンケート調査を行い、回答は全家族に郵送してフィードバックしている。受診時や面会時の機会にも家族に意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、定期的職員会議が開かれ、意見交換が行われている。職員とは年に2回面談の機会もあり、その機会を利用したり、また、随時にも提案しやすい雰囲気作りを心掛けている	全職員が意見を出せるよう、毎月の会議の開催前に、利用者にかかわること、連絡事項、業務改善のための提案などを書いて提出してもらっており、その意見に沿って会議を進めている。夜勤体制、時間について職員からの意見があり、試行したうえで現在の勤務体制とした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として正職員への登用制度や資格手当支給、介護支援専門員研修費用の助成制度がある。資格取得の場合はそれを活用できるよう配慮する。また、異動希望調査があり、希望を取り入れる体制がある。ライフスタイルに合わせた働き方が選択でき、年休の計画付与も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別研修計画を作成し、上司との面談を実施しながら目標に向かう体制がある。コロナ禍で外部に出かける研修は少なかったが、園内研修は勤務時間内に企画し参加しやすい体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で、定期的な市内グループホーム連絡会は開催できなかったが、電話での情報交換は適宜行えた。行事を通じての交流も今年はなく、直接の交流は乏しかった。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接を行い、ご本人に入所にあたり丁寧な説明をすると共に、ご本人の不安や要望を聞き取っている。ご家族からも、ご本人が安心して過ごせるよう性格や生活歴等を伺い全職員が情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面接時に、ご家族からの要望や不安を聞き取り、丁寧に説明を行い、必要であればご本人の事前見学も受付けている。コロナ禍でも入所後の窓越し面会時や受診時には、体調や生活の様子を職員から積極的に伝え、ご家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族及び担当ケアマネジャーと情報交換をしながらニーズの把握をすると共に、提供できるサービスの説明を行っている。必要であれば他サービス機関の情報も説明し、その後の対応も共に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできること、得意なことを職員が把握し、一人ひとりに合わせた得意分野の家事作業、畑仕事、買い物等の活動を自発的に参加できるように、補助、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にはご利用者の生活の様子を詳しく伝え、信頼関係の構築に努めている。受診や外出支援の協力もお願いしている。3ヶ月に1回、ご本人の様子を伝える手紙の送付や納涼祭、収穫祭、お誕生会、クリスマス家族交流会などに参加して頂き、共にご本人を支えて行く関係を築いている。	家族との面会は、新型コロナウイルス感染状況に応じて随時方法を変更して実施した。面会時や受診時には本人の生活の様子を伝え、家族との関係が途切れないようにお願いをしている。3か月に1度は家族に手紙を郵送し、面会に来ることができない家族にも生活の様子が伝わるようにしている。県外の家族にはメールも活用して利用者の様子を伝えた。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	3ヶ月に1回、ご家族にご本人の生活の様子を写真入りの手紙で伝えている。コロナ禍で施設行事、家族交流会等中止となった為、ご家族と電話での会話や窓越し面会で交流できる様、支援している。	懐かしい地域へドライブで訪れたり、スーパーへ買い物に行くなど、馴染みの場所や人との交流を絶やさないようにしている。地元出身の利用者が多く、希望に合わせ家の近くや商店まで行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの性格や生活歴を把握し、食席を配慮している。個人作業や、共同作業を提供し、苦手な所は職員と一緒にしながら楽しめるよう支援している。カラオケや運動レクリエーション等、ご利用者同士が集まって楽しく過ごせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入所施設へ面会に出向いたり、関連機関への情報提供、ご本人ご家族の心配など必要に応じて相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話やご本人の表情、様子から、その方の想いや希望を感じ取り、意向の把握に努めている。困難な場合は、担当職員が、ご本人の状態を考慮して、代弁者としてカンファレンスで本人の想いを伝え、検討材料としている。	利用者からは日常的な関わりの中で、言葉だけでなく仕草や表情から思いや意向をくみ取るよう努めている。日々の関わりの中での気づきも多く、気づいたことや得た情報はアセスメントシートに追記している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、担当ケアマネジャー等関わりのある方から、積極的に情報を集めフェイスシートとしてまとめ、個人の生活記録の表紙に入れている。またご家族に心身、暮らしの情報を記入して頂きアセスメントシートを作成している。新たな情報はフェイスシートに追加して記録している。	自宅を訪問し、生活の状態を確認している。アセスメントシートには家族からも直接記入してもらい、その後得た情報は追記している。在宅時に他サービスを利用していた利用者については、居宅ケアマネジャーやサービス事業所からも情報シートもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の生活パターンを理解し、心身状態の変化に留意し気付いたことは全て生活記録に残している。特記事項は連絡ノートに申し送り、全職員に周知している。モニタリングを行い、会議で検討し現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者、計画作成者を中心に、ご本人の意向、ご家族の意向を十分に聞き取り、反映させたケアプランを立案している。定期会議前に全職員より情報を収集し、会議時に検討することでモニタリングやケアプラン見直しにつながっている。	担当職員と計画作成担当者が家族の意向を確認し、本人の思いや希望を日常的に把握し介護計画を作成している。カンファレンスには利用者自身にも参加してもらい意見を聞いている。会議の前には全職員から本人について情報を収集し、検討している。モニタリングは3ヶ月に1回行い、年1回の計画見直しの機会に本人の希望や家族の意向を改めて聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に、ご利用者の日々の様子や活動の記録を残し、月1回居室担当がケアプラン評価を行い、生活記録に記載している。日々の職員の気づき、提案事項は会議シートに記載し、会議時に検討を行いモニタリング、ケアプラン作成、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況に応じて受診の同行、買い物支援など柔軟な対応を行っている。状態変化時は手紙にて、かかりつけ医に相談したり、受診同行を行い医師に症状を伝えるなど、連携を取りながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	菓子店に誕生会のケーキを購入に行ったり、地域の床屋からは散髪に来て頂いている。小学校との交流や図書館、スーパー、薬局等へもご利用者と一緒に出かけ、地域資源を活用している。地域のボランティア、慰問の方々を受け入れる態勢は整えてあるがコロナ禍の為、中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族と相談の上で決定し定期的に、ご家族に受診して頂いている。その際、ご利用者の状態や施設での様子を家族に伝え、必要であれば体調観察データや書面にて本人の様子を医師に伝えている。	基本的に入居前のかかりつけ医を継続し、受診には家族が同行している。受診の際は、事業所で作成している「健康観察表」をコピーし持参することで、医師に日ごろの様子を伝えている。医師からの指示や服薬の変更などはその都度連絡を受け対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を記録し、毎朝のミーティング時小規模看護職に情報を提供し、話し合いを行ったり、アドバイスをもらっている。特変時は、適切な支援を受けられるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期に看護師や家人より病状や治療内容などの情報を聞き、状態把握に努めている。退院時には病院へ出向き関係者との情報交換、相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合と看取りについての方針は重要事項説明書の中で納得して頂けるように丁寧に説明している。状態変化があり重度化した場合、設備の整った施設への申込み調整など、施設として可能な対応をご家族に説明している。ご本人、ご家族、主治医の方針や意向の確認を行うと共に、体調変化時速やかに受診や対応ができるように努めている。	重度化や看取りに関する指針が整備されており、入居時に指針に基づき説明をしている。利用者の状態が変化したときにもその都度説明し、施設としてできる対応、できないことを具体的に説明している。同法人の特別養護老人ホームとも連携し住み替え等がスムーズにできるよう支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内研修でAEDの取扱い、急変時の対応方法、職員への連絡方法等の訓練を行っている。急変時の対応の流れや、連絡体制などが記されたマニュアルを日頃、確認できる場所に設置している。	急変時のマニュアルが整備されており、毎年、年度の早い時期に、マニュアルに基づいた対応ができるよう訓練を行っている。感染症対応研修では様々な場面を想定し訓練を実施している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害、火災、地震発生時訓練や緊急連絡網訓練を実施している。火災発生時の避難訓練は、年2回行いそのうち1回は、消防署からの指導を頂いている他、自治会長にも参加して頂いている。非常ベル作動時や事業所からの連絡でセコムからも避難補助を受ける体制となっている。	水害の被災経験がある地域であり、6月には市一斉の訓練があり、毎年参加している。火災については、夜間想定避難訓練を消防署立ち合いで実施し、地域の自治会長も参加し地域との連携を図っている。10月には地震想定訓練を実施している。各災害ごとのマニュアルを整備し、水や非常食の備蓄、自家発電機も設置している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なじみの関係でありながらも、入浴やトイレなど配慮が必要な際は、危険のない範囲で場を離れたり、居室のドアは閉め、入室の際はジャックをする等プライバシーの確保に努めている。女性の下着等は人目のつかない場所に干している。人生の大先輩と思い一人ひとりの人格を尊重した言葉かけで対応している。	プライバシー保護に関する研修を行い、人生の先輩として利用者を尊重したケアを行うよう努めている。記録はカギのかかるロッカーに保管し、排泄チェック表なども利用者の目に触れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の着替えの服を、ご自身で選んでもらったり、月1回の出前の日には、食べたいものを選んでもらう等、自己決定できる場を作っている。意思表示が困難な方には、イエス、ノーで答えられるよう配慮したり、表情から読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、散歩や買い物、ドライブ等その日のご利用者の希望に合わせて、過ごし方を決めている。家庭的でゆっくりと好きな事ができる環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時には、ご本人に服を選んでもらったり、昔から使っている乳液やクリームをつけたりしている。整髪時、愛用のドライヤーを使用したり、髭剃り、髪染め等身だしなみや、おしゃれができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者のできることに合わせて、盛り付け、テーブル拭き、食器洗い、食器拭き等のお手伝いを行って頂いている。昼食時は職員もご利用者と一緒に食事を摂り、楽しい食事の時間を共有している。自治会より希望メニューを決めたり、出前の日、行事メニュー等楽しみのある食事を提供している。	献立は栄養食事委員が作成し、特別養護老人ホームの管理栄養士がチェックしている。食材は地域の店で買い、時には畑でとれた野菜も使っている。利用者の自治会からメニューの希望を出してもらったり、おやつ希望を聞いて対応している。月1回出前の日を設けてメニュー表から利用者が選んで決める機会もある。手作りのおやつも一緒に作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは、バックアップ施設の管理栄養士より確認してもらっている。毎食時、食事量のチェックを行い栄養や水分のバランスを確認している。食事が少ない時は捕食をしている。月1回体重測定を行い、増減の変化を確認し食事量や食形態を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを実施している。仕上げ磨きを行ったり、義歯のある方は夕食後、洗浄剤につけ口腔の清潔に努めている。また、週1回歯ブラシ、コップを消毒し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェック表に、排泄した時間を記録することで、排泄パターンを把握しトイレやポータブルトイレでの排泄ができるよう支援を行っている。希望時以外でも食事やお茶の時間前後に表情、仕草を観察し、声をかけトイレ誘導やパットの汚染確認を行っている。	健康管理表で個々の排泄状況を把握し、トイレ誘導をしている。さりげなく声をかけるよう配慮し、排泄用品は目に触れないところに保管している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便のリズムや量や状態の観察、記録を行い下剤の調整を行っている。自然な排便を目指し、毎食時のお茶にオリゴ糖を入れたり、水分に乳製品を取り入れ、一日の水分摂取量を確認している。朝のラジオ体操や散歩、毎日夕方のリハビリ体操やレクリエーションで適度な運動の機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、ご利用者の体調や希望に合わせて入浴回数や時間を変え、柔軟な対応を行っている。浴室に富士山や花の写真を貼ったり、菖蒲やゆず等季節を感じる、かわり湯を行ったり、毎月色々な効果や香りの入浴剤を入れ楽しい入浴に努めている。	週2回以上入浴機会を設け、夏場は回数を多くしている。入浴日は概ね決めていたが、本人の希望や体調に合わせて臨機応変に対応している。マンツーマンの個別介助とし、職員とゆっくり過ごす時間となっている。同性介助にも対応している。風呂場の壁には富士山や花の写真を貼ったり、変わり湯にするなど、入浴をゆっくり楽しんでもらえるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は軽作業、レクリエーション、運動、外出など活動する事で昼夜のリズムを保ち、安眠につながるよう努めている。食後など希望時は居室でゆっくり休んで頂いている。就寝、起床時間はご利用者の生活リズムに合わせた時間となっている。眠れない時は温かい飲み物を提供し、寄り添い安心できる声かけや傾聴を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書のファイルを作りいつでも確認できるようにしている。ご本人が内服完了するまでに4度のチェックがあり安全で確実な与薬に努めている。薬の変更があった際は連絡ノートで周知しており、変更後の症状変化は生活記録に記載している。拒薬があるご利用者には、時間をおいて与薬したり錠剤から粉薬に変更して飲みやすい工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて、食事の盛り付けや洗い物、食器拭き、たたみ物等出来る事を役割として行って頂いている。昔の仕事であった畑仕事や裁縫など個々の生活歴に沿った活動や趣味などを組み合わせ、楽しみのある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の必要物品や食材購入時などは声をかけ、感染対策を行った上で、一緒に買い物に出かけている。晴天時はご利用者の希望を聞き、外出レクを計画し季節ごとにお花見や紅葉狩り、白鳥見学等に出かけている。小学校からの招待で、運動会や文化祭にも出かけた。日常的に、駐車場内を散歩する等屋外に出ている。	近くの公園や観光名所へ、混雑を避け小人数の外出を毎月行っている。また、利用者の希望を聞き、1～2名で食材の買い物に行ったり、天気の良い日は散歩に行くなど日常的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は小遣いを持ち、近くのスーパーで希望の物を購入して頂いている。コロナ禍の為、以前行っていた、お買い物ツアーは中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望や家族連絡の際に電話の取り次ぎを行っている。年賀状や手紙などいつも見られるようになっている。3ヶ月に1回居室担当者からご家族に、近況報告の手紙を送っている。その手紙には、ご本人からも自筆で一言添えたり、塗り絵を入れる等の支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と職員による手作りの壁面飾りや塗り絵など、四季を感じさせる飾り付けを展示している。トイレ内はハイター液で清掃し、清潔保持に努めている。ご利用者と一緒に散歩の途中で野花を摘んだり、畑の花を生けて居室やテーブルに飾っている。畳スペースでは布団や座布団を準備し、いつでも休めるよう配慮している。フロア内の室温、湿度に留意し細目に換気を行い快適な空間づくりに努めている。	リビングの大きな窓からは山や田園を眺めることができ、窓の近くの畳コーナーは利用者がくつろげるよう布団や座布団が置かれている。共有スペースは除菌・清潔保持に努め、掃除が行き届いている。温度・湿度管理にも努め、業務用の加湿器の設置や換気を行っている。利用者で作った壁面飾りや写真を飾り、季節を感じられるよう工夫している。トイレはこまめに掃除をし、いつでも気持ちよく利用できるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテレビやソファが設置してあり、好きな場所でくつろぐ事ができる環境整備を行っている。一人でゆっくり、外の景色やテレビを見れるソファの配置や、気のあった者同士で和気あいあいと過ごせるようなテーブル配置となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながら、自宅で慣れ親しんだ家具や布団、ご家族の写真等を持ち込んで頂き、自宅での生活に近い環境を提供している。壁にはご自身で描いた塗り絵や誕生日の色紙等自由に飾り、居心地よく過ごせるようにしている。	ベッドとカーテンは事業所で用意しているが、それ以外は、自宅で使っていたなじみのものを持ち込んでもらっている。利用者が作った作品や家族の写真が壁面を飾り、たんす、いすなど好きな家具が置かれ、それぞれその人らしい部屋作りがされている。週2回職員が清掃を行っているが、できる範囲で自分で掃除をしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが分かりやすいように、サインプレートで表示したり、トイレドアには立体的に見やすい表示をしている。居室には表札やご本人が作成した塗り絵等を貼り、ご利用者が分かりやすいよう工夫している。安全に移動できるよう、環境整備を行い移動スペースを確保し見守りを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				